

◎ スポーツ健康福祉学科の3つの方針

《健康福祉学部スポーツ健康福祉学科めざす人間像》

人間性豊かで福祉の心もち、スポーツや身体運動についての専門的な知識・技術と応用的能力を通して、すべての人の健康生活支援ができる人

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

大学設置基準にもとづき、本学が定める履修要件に沿って124単位以上を修得し、そのGPA値が原則2.0以上であって、以下の観点別能力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与する。

I【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】（態度・志向性）

- 1) 人間の健康生活、社会問題などに関心を持ち、主体的・自立的に学び続けることができる。
- 2) 学習の成果を自らの生活に還元するとともに他者と協調し、地域社会に還元しようとする意欲を持っている。
- 3) 健全な人間観、社会観を持ち、人々の健康な生活の発展に貢献することができる。

II【専門職業人としての汎用的能力】（技能・表現）

- 1) 身につけた健康・スポーツ、福祉、教育に関する基礎知識を活用して運動技能や表現力を高めることができる。
- 2) 身につけたコミュニケーション力やIT操作力を活用して他者と円滑に連携することができる。
- 3) 課題解決に必要な情報を収集し、分析・整理して、その結果を他者に適切に表現できる。

III【教養ある専門職業人としての基礎力】（知識・理解）

- 1) 専門職業人として、健康・スポーツ、福祉、教育に関する基礎知識を身につけている。
- 2) 健康で文化的な生活を営むために必要な基礎知識を身につけ、更新していくことができる。
- 3) 健康・スポーツ、福祉、教育に関する学際的、総合的基礎知識を身につけ、すべての人々に支援する方法を理解している。

IV【地域生活を支援し、創造する力】（行動・経験・創造的思考力）

- 1) 心身の健康維持・増進に関する課題を把握し、その解決策を提案することができる。
- 2) 地域の健康維持・増進に関する課題に対して、実践を通して貢献できる力を身につける。
- 3) 他者と協調して課題解決に必要な情報を収集・分析・整理・創造し、その結果を活用して地域生活を支援することができる。

教育課程方針（カリキュラム・ポリシー）

- ・身体運動のメカニズムを理解するため、運動学、生理学、機能解剖学、スポーツ医学などを配置する。
- ・身体運動を科学的に計測、評価、分析するための手法を学ぶために、運動負荷試験、測定評価などを配置する。
- ・健康スポーツを実践する専門職として必要な基礎知識を修得するために、生涯スポーツ論、健康体力づくり論、レクリエーション支援論などを配置する。
- ・健康スポーツを実践する専門職として必要な支援技能を修得するために、運動方法学演習、レクリエーション支援演習などを配置する。
- ・競技スポーツを指導・支援する専門職として必要な知識と技能を習得するために、スポーツ心理学、トレーニング論、コーチング学、コンディショニング演習、スポーツ指導法演習などを配置する。
- ・高齢者や子ども、障害のある人たちの健康スポーツを実践する専門職として必要な基礎知識を修得するために、アダプテッド・スポーツ論、高齢者の健康と運動、子どもの運動とスポーツなどを配置する。
- ・全ての人の多様な生活支援方法を理解するために、地域スポーツ支援論、スポーツ文化論、ユニバーサルデザインなどを配置する。
- ・中学校・高等学校の保健体育の教員、および小学校教員として必要な知識を修得するために、教育基礎論、保健体育科教育法（中高）、体育科教育法（小）、教職実践演習などを配置する。

入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）

スポーツ健康福祉学科では、ユニバーサル社会に対する理解と知識を持ち、すべての人に健康運動やスポーツ、レクリエーションを活用して総合的な健康を支援し、豊かな生活の構築に貢献できる人材を養成することを目的として、次のような意欲、能力、適性をもった学生を受け入れることを基本方針とする。

- ① スポーツやレクリエーション活動などの身体運動と福祉に興味や関心を持つ人
- ② 身体運動を通して人々の健康生活を支援することで社会に貢献したいという意欲がある人
- ③ 優しい人間観と健全な社会観をもっている人
- ④ 何ごとにも熱意と主体性をもって取り組もうとする人

以上のような基本方針に基づき、スポーツ健康福祉学科では、健康運動指導士、健康運動実践指導者、障がい者スポーツ指導者、スポーツ・レクリエーション指導者、トレーニング指導者、公認スポーツ指導者等、人々の健康生活を支援するための資格や、中学校および高等学校教諭一種免許（保健体育）および小学校教諭二種免許を取得するための専門科目群を準備している。したがって、コミュニケーションに必要とされる幅広い教養と、何ごとにも主体的に取り組む姿勢を身につけていることが期待される。教科の中では特に、コミュニケーションの基本となる「国語」、人間社会の在り方を学ぶ「公民」、心と身体の健康づくりについて学ぶ「保健体育」、自然界のしくみを学ぶ「理科」などを学習していることが望まれる。